



SUMIDA CUBE TOILET

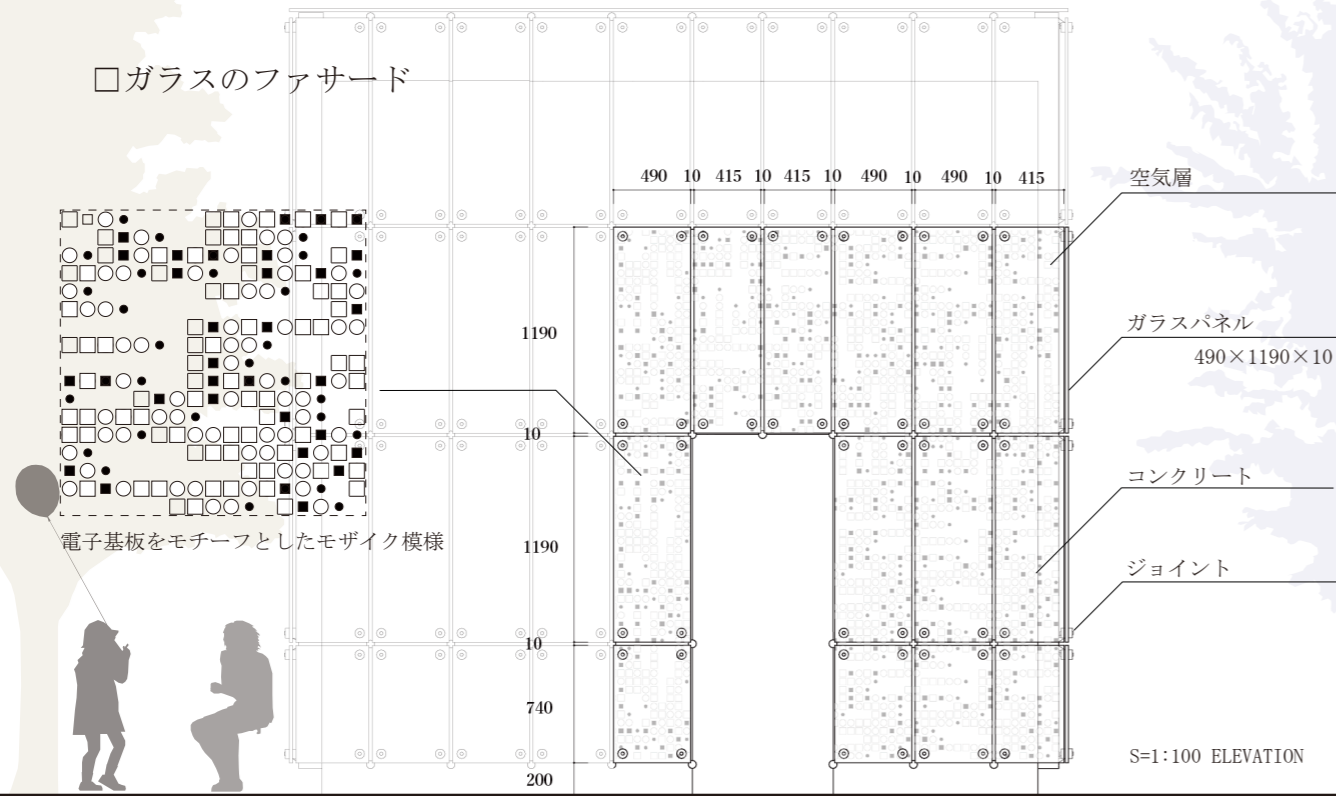


テクノロジーの発展により自然界のいかなる現象も正確に捉えることができる未来がすぐそばまできている。
 私たちの日常生活のレベルで見ても、テクノロジーのおかげで様々な情報に場所を選ばずアクセスできるようになっていたり、預かる恩恵は計り知れない。
 そんな日常では、テクノロジーの中へ足を踏み入れることで新しい発見が生まれるなどというのはよくある話だ。
 しかし、問題点もある。
 テクノロジーは実際に体感する時にしか生じない根源的な感覚を人間に与えず、過程を省略して結果のみを授けてしまうのだ。
 非常に便利な世界だが、このままでは私たちの感覚は錆びついてしまうのではと心配にもなる。

そこで、テクノロジーとモノや土地の個性、人の根源的な体験の共存を試みた。
 これはテクノロジーの限界と可能性を示したアナロジーである。



□ガラスのファサード



「明るいトイレ」

「Memory : Sumida + iU + Design research institute」

墨田に限らず公衆トイレには薄暗く、陰湿なイメージが付きまとう。そこで私たちが目指したのは従来の公衆トイレにはない新たなトイレのイメージを作ることだった。

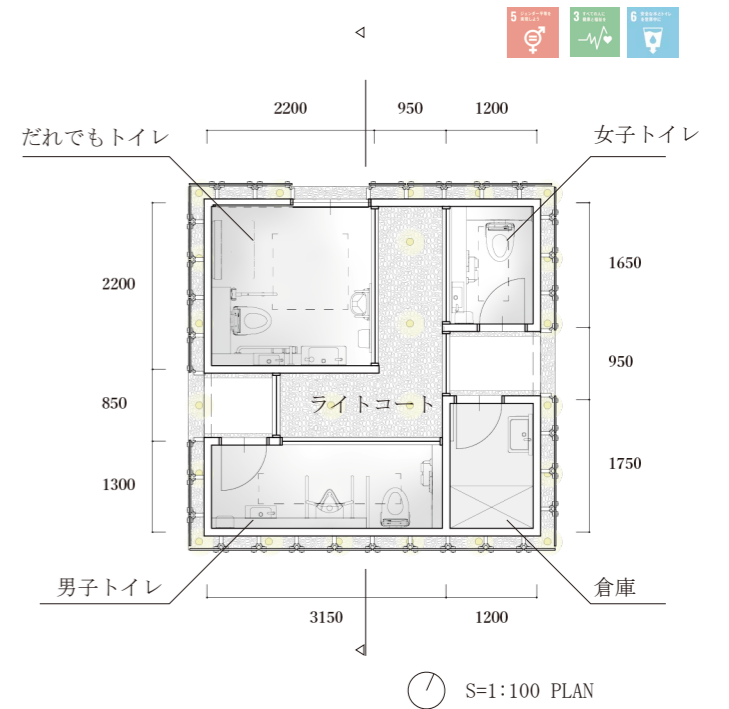
オブジェのように見えるこの立方体は、従来の公衆トイレのイメージと対比的なガラスによって覆われ、その表面には墨田を学びの視点から引っ張っていくであろう「情報技術」を象徴とした幾何学模様を「デザイン」している。

それは日が沈むと地域を明るく照らす光となり、日が登ると人々の活動を映し出す器となることで、従来のイメージから解放されるのだ。

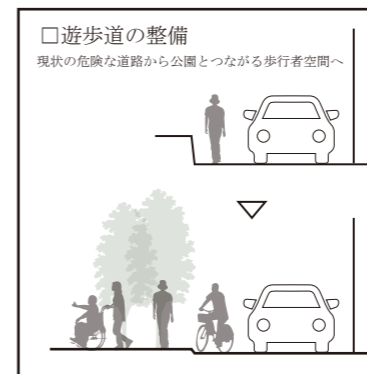
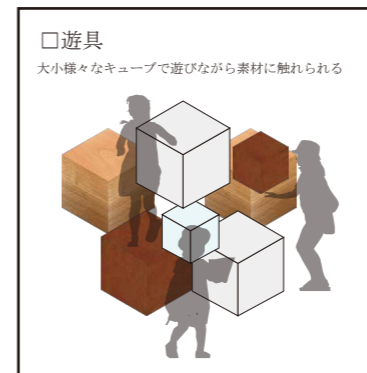
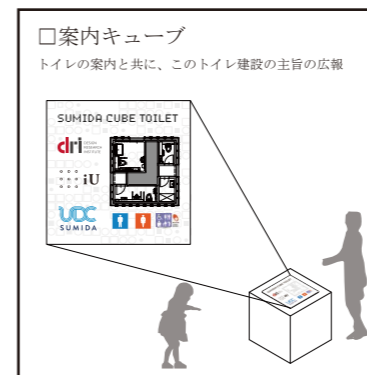
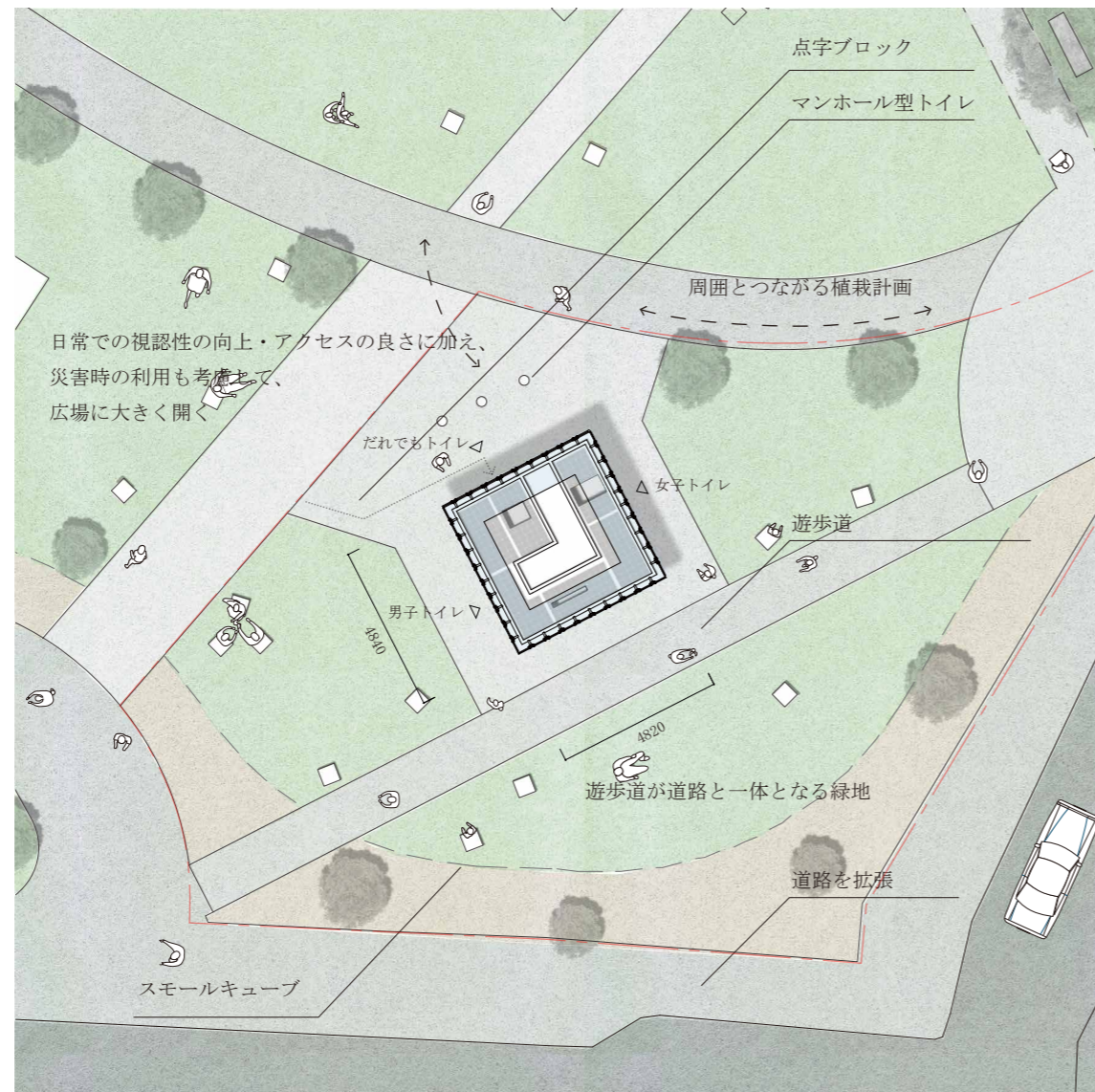
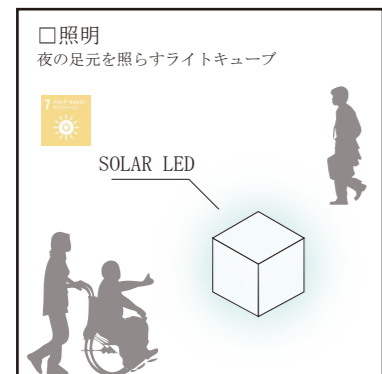
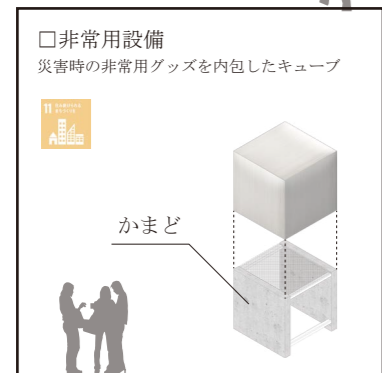
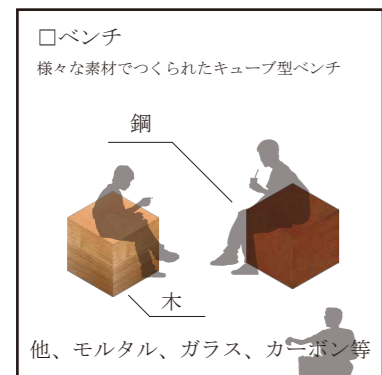


□Plan

正方形のプランの中心にL字のライトコートを配置している。ライトコートに接するように各個室を配置することで、室内に自然光を取り込んだ明るく、開放感のあるトイレになっている。また、開口がファサードにあらわれない計画によって、外観がまとまりのあるデザインになる。



□スモールキューブ配置図



□パッシブデザイン

ガラスの被覆は躯体の劣化を防ぎ、セルフクリーニング効果のあるガラスを使用することで汚れが自然に落ちる。ライトコート（光庭）と光ダクトが各個室に自然光を取り入れ、ライトコートは空気の循環も促す。

